

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail kosaiji@hotmail.co.jp

報恩講が勤まりました
十一月五日・六日

広濟寺報恩講が、先月五日、六日と勤まりました。御講師には、高岡市伏木の龍善寺住職の山名一徳師をお迎えし、両日、午前・午後各計四座、ご法話を頂きました。山名先生にはもう随分前から毎年の報恩講の法話をお願いしております。今年もまた皆さんに分かりやすく報恩講のお話から阿弥陀様のお話までして頂きました。



さて、本年の報恩講は両日共に快晴だったこともあり、多くの御門徒の方々の参拝がありました。前号で紹介しましたお昼のお齋おひらも多くの方々に召

し上がって頂き、大変賑やかな報恩講を迎えることができました。

この報恩講ですが、この日を迎えるにあたり、多くの方々のご協力があります。

お昼のお齋の準備も二日前から始まります。またそれ以前からも、仏具磨き、境内だちの草むしり、掃除、本堂の準備などがあり、本年も多くのお門徒の方々のご協力のもと無事報恩講を厳修しゅできたことを心からお礼申し上げます。

さて来月一月十五日・十六日はお知らせにもあるように御正忌報恩講ごしょうぎとなっております。皆様どうぞ参拝なさってください。「また報恩講？」という気もいたしますが、これは親鸞聖人しゅうにんが亡くなられた日というのが一月十六日だからです。「じゃあなぜ十一月にも報恩講があるのか？一回でいいじゃないか」という気もいたします。

詳しくは次のページにて・・・

報

恩講についてですが、本来、報恩講とは何なのか？これは

前号でも申しましたように、親鸞聖人を偲んでお勤めする法要のことです。ですから浄土真宗では一番大事な法要なのであり、本山である西本願寺では一月九日午後から一月十六日午前まで実に七昼夜にもわたってお勤めされます。一月十六日というのは親鸞聖人が亡くなられた日であるので、御正忌といえます。その時期の報恩講だから御正忌報恩講と呼ぶのです。また七昼夜のお勤めですので「御七夜」とも呼ばれます。では、報恩講とは一月十六日にあわせて勤めればいいのか、なぜ本山以外のお寺は御正忌以前に報恩講を勤めてしまふのでしょうか？当広濟寺も報恩講は十一月五日・六日に

なっております。

これには雪の少ない参拝しやすい季節であるといった理由もあるでしょうが、何よりも大きな理由が、本山である西本願寺の御正忌報恩講に参拝するため、です。御正忌の期間に各寺で報恩講をしていては本山に参拝できなくなります。よって、本山の報恩講に先立つて各寺では年内に報恩講をお勤めするのです。報恩講が「お取り越し」にお引き上げ」とも呼ばれる所以です。けれども京都まで行くとなると、負担も少なくなき、行ける人行けない人がでてきます。その本山まで行けない人のために、各寺でも御正忌報恩講をお勤めしているのです。よって御正忌には、本山に参拝するか、各寺の御正忌に参拝するかになるのです(笑)。

除夜の鐘、撞いてます

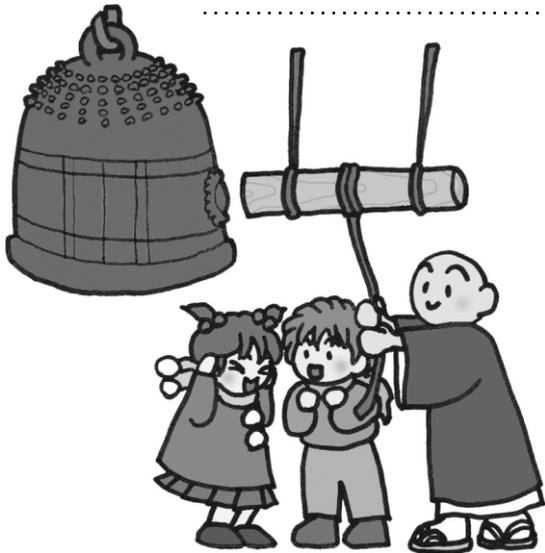
毎年、十二月三十一日大晦日には除夜の鐘を撞いておられます。時間は、NHK「ゆく年くる年」が始まる時間と同じく、二十三時四十五分からです。およそ一時間かけて百八回大きな梵鐘を鳴らします。小さい子が撞くと、鐘はゴン、大人になれば鐘はゴオオーン！やはり煩惱の大ききさでしょうか？(笑)

の持つ百人の煩惱を滅して新しく新年を迎える為と言われています。しかし真宗では、鐘を撞いて煩惱が減するとは考えません。

除夜の鐘は一般には、人間

むしろ鐘を撞くことで、自分の煩惱に気づかせてもらうという事。自分が持つ数多くの煩惱、そしてそれから離れることのできない私を改めて見つめ直し、そんな私と共に阿彌陀様がおられるのだということ、一年の境に省みるご縁として頂ければと思います。

・・・と難しく考えなくとも、鐘は鳴ります。鐘撞きの最中も常時出入り自由となっておりますので皆様お誘い合わせの上お越し下さいね。



五位組

親鸞聖人750回大遠忌 お待ち受け法要

日時

平成22年4月11日(日)

午後1時30分

会場

高岡市石堤

長光寺



平成二十三年の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に先立って、来年四月十一日、五位組(広済寺を含む近隣の十八カ寺)では親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け法要をお勤め致します。

十八カ寺合同で行う法要です。規模も大きく、会場は長光寺(高岡市石堤三六六一)となりました。長光寺さんには大きな本堂があり、またできたばかりの御殿があるのでたくさんの方々に参拝していただけます。

法要は、この度新しく制定された宗祖讚仰作法の音楽法要をお勤めします。エレクトーンやコーラス、そして雅楽も入るこの法要は、今までの法要のイメージとは違う新しい形です。また、記念法話には遠く広島から福間義朝先生に



お越し頂きます。福間先生は布教使を育てる伝道院というところで専任講師を務めておられ、私も先生から教わりました。全国でも大変有名な布教使先生です。また福間先生は若者にも大変人気があり、幅広い年齢層の方々に聞いて頂けると思います。涙あり笑いありのお話はきっと皆さんの心に響くものがあると思います。

そして実はこの法要には参加費(チケット)をお願い致しております。様々な準備の為

に申し訳ありませんが、お一人千円の参加費をお願いしたく思います。尚、参加者には法要記念の華芭(花卉の形をした葉の様なもの)をお渡しする予定です。チケットは広済寺に連絡して頂くか(連絡先は表紙参照)、月参りの時などにお問い合わせ下さい。当日参加も大丈夫です。また長光寺(次のページに地図があります)へは、車で

広済寺から 十分
高岡ICから 七分
石堤小学校から 三分

です。駐車場も多く用意しておりますが、当日は混雑が予想されるので可能な方は乗り合わせの上お越し下さい。会場までの足がないという方も、巡回バスなどを考えておりますので是非ご参加下さい。

長光寺までの地図



長光寺さんは上記の地図では左上端に矢印で記しております。

広濟寺は左側下に記しております。

尚、当日の駐車場は、長光寺、三協化成さん、石堤地区公民館(※石堤公民館ではありませんのでご注意ください)となっております。(上記地図参照)

当日は混雑が予想されますのでご配慮の程お願い致します。

大遠忌通信

さて今回お知らせしました様に、来年四月十一日(日)は五位組親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け法要が勤められます。

すでに準備は始まっており、ようやくチケット販売までこぎつけました。現在、五位組の僧侶も随分若返りをしまして三十代がほとんどです。準備が至らぬ点多々出てくるかとは思いますが、若いパワーだけはありますのでどうぞご期待下さい。

そして再来年の同日四月十一日には、京都西本願寺への親鸞聖人七百五十回大遠忌法要・五位組団体参拝となります。全国から多くの方々が本山に集まることでしょう。

いよいよ五十年に一度の大遠忌、近づいてきましたね。

仏事の疑問 Q & A

質問 焼香の仕方がよく分からないのですが・・・。

お通夜・葬儀の時、また法事の時など、焼香する機会つて結構ありますよね。

焼香の作法についてですが、

これは各宗派によつて違います。ここではもちろん浄土真宗本願寺派(お西)の焼香作法について紹介します。

① 焼香卓の手前で阿弥陀様に向かい合掌せずに一礼(軽く頭を下げる)。

② 一、二歩進み(焼香盆等が膝の前にある場合は除く)、お香を一回だけつまむ。

③ つまんだお香をそのまま香炉に入れる。(お香を額におしただくというようなことはしない)

④ 合掌し礼拝(南無阿弥

陀仏とお念仏申しませう)。

⑤ 一、二

歩下がつて(焼香盆等が膝の前にある場合は除く)、阿弥陀様に向かい合掌せずに一礼(軽く頭を下げる)。

以上、このような流れになりますが、よく間違ってしまうポイントを二点挙げておきます。

1 お香をつまんで香炉に入れるのは一回のみ(何度もしない)

2 つまんだお香を額におしただくというようなことはせず、そのまま香炉の中へ早速次回の焼香から心がけてみて下さいね。



月参りをお休みとさせて 頂く日をお知らせします

以前より報恩講の期間中などは月参りをお休みさせて頂いていたのですが、その都度連絡するというようなことはしておりませんでしたので、改めてこの寺報において、お休みさせて頂く日をお知らせさせて頂こうと思います。

正月三日

一月一日〜三日

お盆期間中

八月十四日〜十六日

当寺報恩講 期間中(四日は準備の為)

十一月四日〜六日

以上の期間中に月参りをさ

せて頂いている皆様には、命日にも関わらず誠に申し訳ありませんが、お休みとさせて頂きたく思います。よろしくお願い致します。

但し、該当日が祥月命日(亡くなられた月の命日)にあたられる方はお参りさせて頂きます。

尚、月末のお参りに関してですが、三十一日など毎月あるわけではない月命日があります。その時は、その月の最終日にお参りさせて頂いておきます(例えば四月の場合、三十日に三十一日の分もお参りさせて頂きます)。

以上、ご迷惑をお掛けしますが、今後とも宜しくお願致します。

お知らせ

二〇〇九年

除夜の鐘

十二月三十一日(木)

午後十一時四十五分より

二〇一〇年

元旦会

一月一日(金)

午前五時より

御正忌報恩講

一月十五日(金)

午後二時より

一月十六日(土)

午前九時半より

午後二時より

御講師

砺波組 明覚寺

林 要昭 師

住職コラム

去る十二月五日付富山新聞に『ふるさと上空』というタイトルの笹川・千鳥ヶ丘町の航空写真が載っております。

京都く大阪間の天王山に似て国道・鉄道・高速道が集結し、おまけに小矢部川まであり、しばらくして新幹線も通ります。しかし、空は青々と澄み、どこまでもひろい光にあたたかくつみ込まれています。

この村だけではなく、私どもには、どこにいてもあたたかくつつまれ、和やかにと願われているのではないのでしょうか。

ただ自分では気付かないだけ――。

合掌

編集後記

毎年恒例となった、世相を表す「今年の漢字」が発表されました。今年「新」。オバマ新大統領就任に始まり民主党新政権の誕生、イチロー選手・ボルト選手の新記録、最近では新型インフルエンザが記憶に新しいですね。

ただこの「新」というのは何も今年に限ったものではありません。来年だって新年ですし、次の政権だって新政権なのです。ならばなぜ今年の漢字が「新」だったんでしょうか？恐らく今年の「新」にはそれだけインパクトがあり心揺さぶるニュースが多かったからでしょう。

仏教ではこ



の世界は諸行無常(全てのものはうつろいゆく)と申します。つまりあらゆるものに常はない(不変ではない)ということ。すべてが生滅(うつつ)のなかにある。ならば、これはあらゆるものが今「新しい」ということにならないでしょうか？私達は「新しい」ものに包まれて一瞬一瞬を生きているのです。その一瞬一瞬がまた「新しい」のです。

けれど、私達にはそのことが見えていません。インパクトがあり心揺さぶる「新しい」ものには目を向けるけれども、毎日の「新しい」には目を向けていません。

さあ、新年は毎日の「新」にもう少し目を向けてみませんか？心揺さぶる新発見があるかもしれませんよ。